

## — 経営理念 —

## ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

## — 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、  
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、  
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、  
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、  
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、  
安心・安全なものづくりを約束します。

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

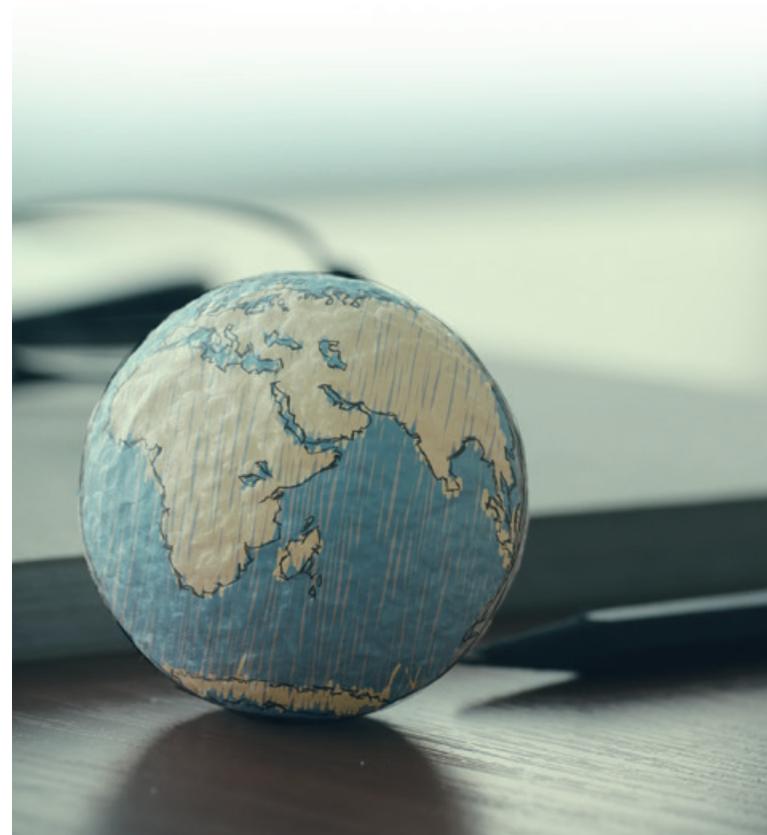
公告方法 電子公告  
公告掲載URL <https://www.fkkasei.co.jp>  
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告  
できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



## Business Report

## 第114期 報告書

2024年4月1日～2025年3月31日



# To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第114期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2025年6月

当連結会計年度におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調にありますが、原材料・エネルギー価格の高騰や各種物価の上昇、急激な為替相場の変動等により先行き不透明な状況で推移いたしました。

海外経済におきましても、ウクライナ・中東情勢の長期化、欧州における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞、米国新政権の今後の政策動向等、景気への懸念事項が多く、今後も先行き不透明な状況で推移するものと思われまます。

このような環境の下、当連結会計年度の売上高は555億2千8百万円（前連結会計年度比5.5%増）となり、営業利益は13億6百万円（同0.5%増）、経常利益は20億3千3百万円（同10.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失にてコーティング事業の固定資産の減損損失7億9千1百万円を計上したことにより、5億1千1百万円（同52.5%減）となりました。

今後の経済見通しにつきましては、米国新政権の今後の政策動向、原材料価格の高騰、中東やウクライナ情勢等の影響もあり、引き続き予断を許さない状況が続くものと思われまます。

当社グループにおきましては、企業の社会的責任（CSR）を果たし、お客様をはじめ、社会から高い信頼を得ることに加えて、技術開発や事業活動を通じて新たな価値を提供し、利益を創出することで企業価値を高めてまいります。

また、第11次中期経営計画の最終年度にあたる第115期におきましては、本中期経営計画で掲げた連結売上高・営業利益目標に近づけるよう、全社一丸となって邁進してまいります。

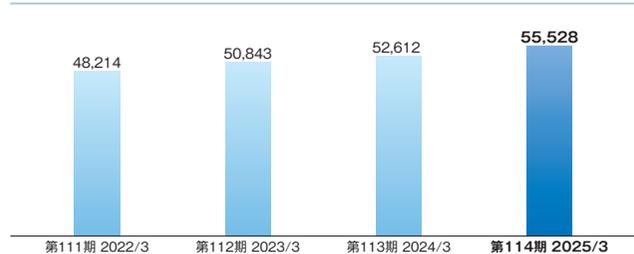
株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 栗原 進

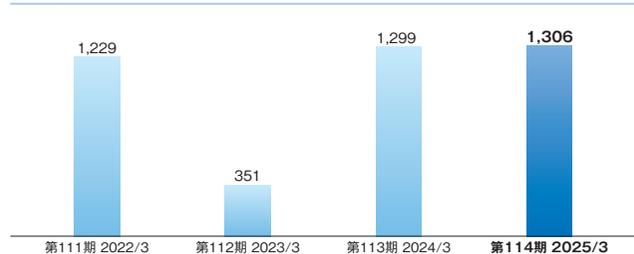
# Financial Highlights

連結財務ハイライト

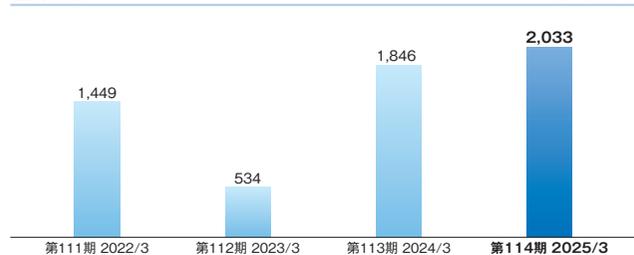
## 売上高 (単位：百万円)



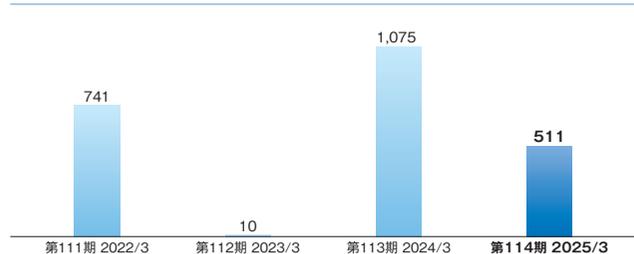
## 営業利益 (単位：百万円)



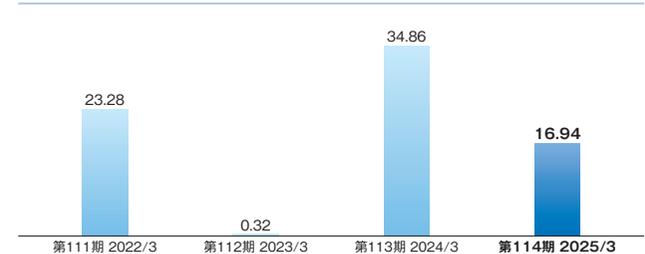
## 経常利益 (単位：百万円)



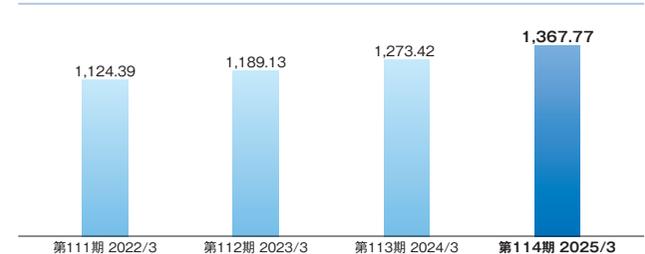
## 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



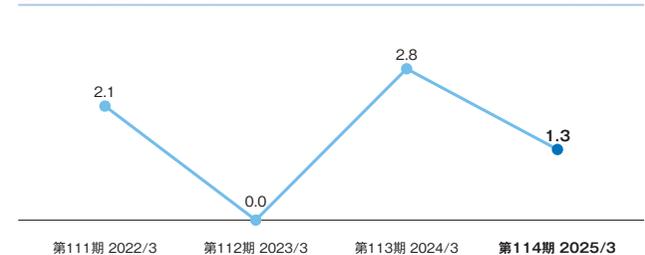
## 1株当たり当期純利益 (単位：円)



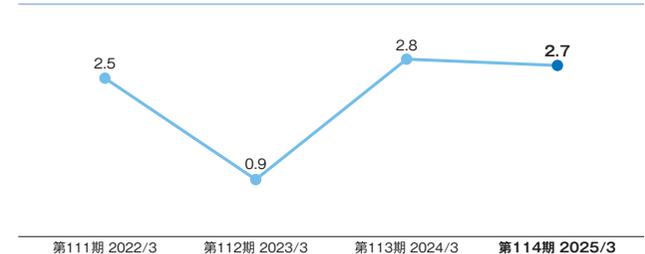
## 1株当たり純資産額 (単位：円)



## 自己資本利益率 (ROE) (単位：%)



## 総資産事業利益率 (ROA) (単位：%)



# Segment Review

(単位：百万円)

## コーティング事業

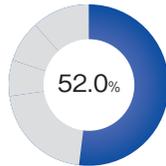


### 主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、  
自動車電装部品分野、  
化粧品容器関連分野、  
家電分野、ホビー分野、  
農業資材分野

プラスチック用コーティング材（『レクラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティング部門におきましては、自動車向け塗料の国内販売は、一部顧客の生産停止や減産の影響もあり、低調に推移いたしました。海外の販売は、北米市場に需要減少の動きはあるものの、堅調に推移いたしました。一方、中国、欧州、タイの市場においては販売が低調に推移する結果となりました。

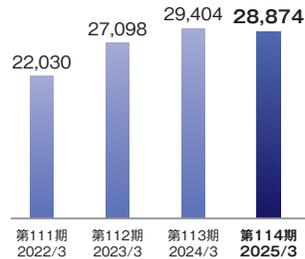
自動車向け以外の分野では、化粧品容器用塗料は海外での新規案件の獲得等もあった一方、国内化粧品メーカーの販売不振等により、国内での販売が低調な結果となりました。ホビー用塗料につきましては、国内、海外ともに販売が堅調に推移いたしました。



売上高構成比

売上高  
**288億7千4百万円**  
(前連結会計年度比1.8%減)

セグメント利益  
**6億8千3百万円**  
(前連結会計年度比48.1%減)



## 塗料事業

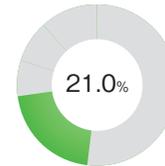


### 主要分野

外装建材分野、  
内装建材分野、  
エクステリア材分野、  
住宅設備分野

建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、新築用塗料の販売は、主要顧客からの受注が回復せず前年を下回る結果となりました。

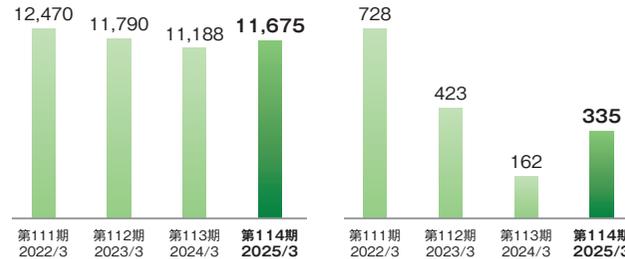
リフォーム用塗料におきましては、新製品の投入によるシェアアップや集合住宅向けリフォーム用塗料の販売が寄与し堅調に推移いたしました。



売上高構成比

売上高  
**116億7千5百万円**  
(前連結会計年度比4.4%増)

セグメント利益  
**3億3千5百万円**  
(前連結会計年度比106.7%増)



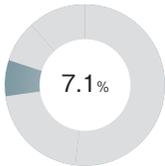
## 電子材料事業



### 主要分野

通信機器分野、  
表示体分野、  
家電分野、  
車載用電子機器分野、  
OA機器分野

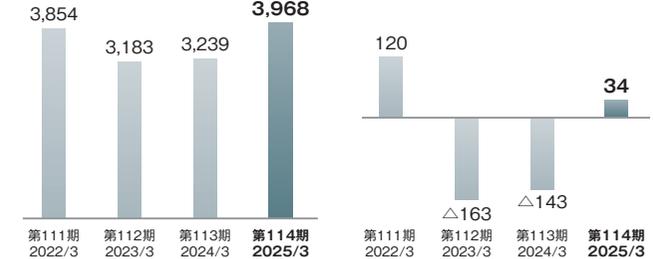
導電性樹脂材料（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、車載用のシートベルト向け製品の販売が第4四半期で下振れしたものの、パソコン向けやカーナビディスプレイ向け製品の販売が好調に推移いたしました。



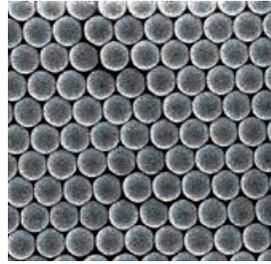
売上高構成比

売上高  
**39億6千8百万円**  
(前連結会計年度比22.5%増)

セグメント利益  
**3千4百万円**  
(前連結会計年度比 -)



## 化成品事業

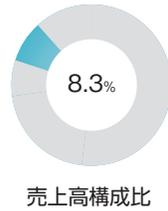


### 主要分野

トナー用樹脂分野、  
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、  
ディスプレイデバイス分野、  
メディカル材料分野、  
電子部品関連分野

トナー関連材料、粘・接着剤ベース（『アクリベース』）やメディカル材料を取扱う化成品部門におきましては、ファイン材料や粘着剤、レジン、電荷制御剤等の分野で好調な結果となりました。

また、メディカル材料分野におきましては、主力の糖尿病診断薬が海外での販売が堅調に推移いたしました。また、その他分野で苦戦を強いられました。

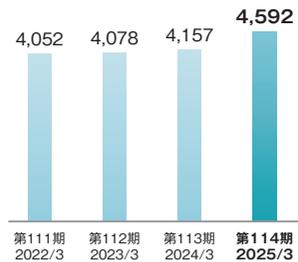


売上高構成比

### 売上高

45億9千2百万円

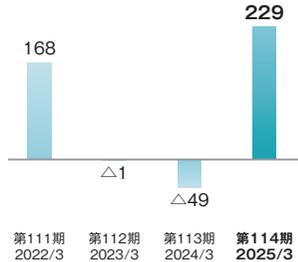
(前連結会計年度比10.5%増)



### セグメント利益

2億2千9百万円

(前連結会計年度比 -)



## 合成樹脂事業



### 主要分野

高機能光学材料分野、  
産業資材分野、  
工業用銘板分野、  
車載用材料分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱う樹脂製品の仕入・販売におきましては、上期は新規獲得した北米向けのアクリル樹脂原料の販売が堅調に推移し、売上が大きく伸びましたが、下期に入り在庫調整等が行われた影響で失速しました。

また、リチウムイオン電池用増粘剤の販売も引き続き低調な結果となりました。



売上高構成比

### 売上高

64億1千9百万円

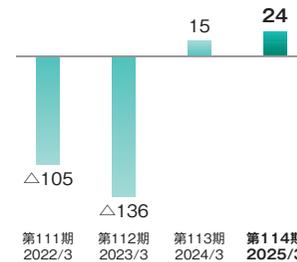
(前連結会計年度比38.8%増)



### セグメント利益

2千4百万円

(前連結会計年度比62.6%増)



## 会社概要 (2025年3月31日現在)

会社名 藤倉化成株式会社  
 本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号  
 本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号  
 設立 1938年9月22日  
 資本金 53億5千2百万円  
 従業員数 連結 1,226名  
 単体 439名  
 連結子会社数 国内4社 海外15社  
 ホームページ <https://www.fkkasei.co.jp>

## 株式の状況 (2025年3月31日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株  
 発行済株式の総数 30,850,000株  
 株主数 6,424名

## TOPIC

### 佐野事業所工場リニューアル

現在、当社では佐野事業所のリニューアル計画を進めております。

佐野事業所は操業から50年が経過し、その間、当社の国内基幹工場として稼働してまいりました。リニューアル計画のSTEP1である危険物倉庫及び非危険物倉庫の新設は完了し、今般、STEP2として、佐野事業所第三工場の敷地内にコーティング事業の新工場、検査棟及び厚生棟を新たに建設することを決定いたしました。

建設費用は約98億円を見込んでおり、2025年10月以降に着工し、2027年9月以降に順次生産を開始する予定でございます。

安全操業の確保と生産効率の向上を図るとともに、お客様の多様なニーズにお応えするための品質体制を構築し、事業競争力と収益性の向上を実現してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。